

2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092400102		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム野の花	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字前津1417-1		
自己評価作成日	2023年3月5日	評価結果市町村受理日	2023年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年3月28日	評価確定日	2023年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様に四季折々の季節に応じた行事を職員と一緒に楽しんでいただきながら、田畑に囲まれた穏やかな環境で日々の生活を共にゆっくと過ごして頂きたいと考えています。また、ご家族様にも安心して大切なご家族が入居していただけますように誠実にそして日々研鑽を重ねながらケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム“野の花”は筑後市にあり、2023年度に10周年を迎える。開設以来、地域の一員として地域交流を紡いでこられたが、コロナ禍は地域行事が中止になり、残念に想っている。2022年度は道路愛護(年2回)が再開し、職員が草刈り機を持って参加しており、地域の方から「どげん？」と声をかけて下さり、嬉しく思っている。ホーム周囲の梨の花も見事で、雪が積もったように綺麗な花を見ながら、夏以降に収穫される美味しい梨を想うひと時となっている。日々の生活では楽しみを増やすように努めてこられ、職員が菜の花を押し花にした「しおり」をプレゼントし、ご利用者の方々も大切に飾られている。ご利用者の希望でお寿司(特上握り)を配達してもらい、笑顔いっぱいの一と時を過ごされている。ご利用者の方々が自主的に脳トレやレク、ゲームに取り組まれる姿もあり、365歩のマーチを歌いながら、廊下での歩行訓練をされている。2022年度は管理者と介護支援専門員(看護師)を含めた新体制になっているが、同じ敷地内の小規模多機能事業所と兼務されていた方々でもあり、結束は早く、チームワークも良好である。社長・ホーム長にも相談しやすく、今後も「四季折々の季節や五感を感じる生活を支援します」等の理念の実践に繋げていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目のつく所に貼ってあり朝礼時に唱和、理念を基に行動している。	理念の中に「ご入居者様らしい生活を送ることが出来るよう、自分らしく自由な、そして、1日1日「今」を大切に暮らしてを支援します」とあり、職員は身に沁みるくらい理解している。ご自分のペースで生活して頂けるように、ご本人の生活歴やお好きなことを把握し、日々の生活の中で楽しみや役割を担って頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域活動は道路愛護への参加のみとなっている。	2020年度から地域行事が中止していたが、2022年度は道路愛護(年2回)が再開した。職員が草刈り機を持って参加し、地域の方と情報交換できるようになった。地域の方から「どげん？」と声をかけて下さり、嬉しく思っている。	今後も広報誌を見ながら、地域行事等に参加したり、保育園児や小学生、中学生との交流を増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路愛護への参加の際に地域の方に活動内容はなしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換、質疑応答行っている。	2020年3月から書面会議を続けている。作成した書類をお持ちした際、質疑応答を電話にて行うことをお伝えし、少しでも情報交換できるように努めている。コロナ以前は系列の小規模多機能事業所と一緒に開催し、ご利用者も行事の感想等を伝えて下さっていた。今後は対面での開催ができるように調整していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面での報告を行い電話にて質疑応答を実施している。 包括主催の勉強会等はZOOMで参加している。	代表やホーム長、介護支援専門員が主になり、市との連携を行い、不明点を相談した際もアドバイスを頂いている。新型コロナ流行時もマスクと消毒薬等を配布して下さり、心強く思っている。ホーム長が地域包括主催の勉強会やGH協議会の部会に参加し、情報交換を続けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の実施や職員会議で権利擁護などの勉強会も行っている。 包括主催の権利擁護の勉強会はZOOMにて参加し職員間で共有している	身体拘束は一切行わず、個別の身体・精神状態を考慮し、職員間で情報共有している。身体拘束等適正化委員会を行い、2023年度は虐待防止委員会も開催していく予定である。日々の職員の対応も優しく、穏やかに過ごされている方が多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い再認識して防止に努めている。スタッフ間でのケアの共有・意見交換を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部勉強会に参加したり施設内での勉強会の実施を行っている。	内部研修で成年後見制度等の研修を行い、地域包括主催の研修内容も職員と共有している。制度のパンフレットを準備し、入居時に家族に説明している。現在は制度を利用する方はおられないが、以前は後見人（司法書士や親族）との話し合いをしていた。入居後も制度の必要性を検討し、必要時は窓口を紹介している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は、必ず御家族に説明し、また質問、意見等あれば、その都度説明して了承いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置やご家族来訪時に意見や要望を伺い朝の申し送りや職員会議等で話し合いをして反映させている。	毎月「野の花新聞」と「ホーム便り」、担当職員のお手紙等を毎月郵送し、暮らしぶりを報告している。コロナ禍、面会中止の期間があったが、窓越し面会などは継続していた。電話や手紙で家族と連絡を取り合い、不安の軽減に努めると共に、家族の思いを伺うように努めてこられた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容やケアの方法など毎日の申し送りや会議にて意見交換、情報共有を行っている。	社長と管理者は職員の意見やアイデアを大切にされており、1日1日「今」を大切にすることを暮らしの支援に繋げている。年間計画に応じて職員に行事担当を担って頂き、天候を見ながら花見ドライブ等を企画している。職員同士の助け合いも日常で、良きチームが作られており、職員の家庭事情を考慮した勤務表を作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞いたり資格取得や子育て支援、各スタッフの状況や相談に応じ調整している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	そのスタッフの身体や家庭の状況に応じ、勤務体制を整えている。新しく入られたスタッフには、マンツーマンで指導を行っている。	職員の紹介で就職される方もおられる。ホーム長や介護支援専門員が採用時の面接をしており、介護経験を問わず、施設の応募条件と応募者の希望が合っている方や、仕事に対しての取り組みが真摯である方等を採用している。就職後も職員個々の特技（パソコンが得意、手作りのレク等が得意等）を發揮されている。勉強会も継続し、職員の能力アップに繋げている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員会議や日常生活での気づきがあれば、各入居者様に応じたケア方法を意見を出し話し合いにて決定・実地している。	身体拘束廃止委員会などで、ご利用者の個別ケアの在り方や声かけの仕方等を再確認している。社長と管理者等からも「高齢者の尊厳（言葉遣い、羞恥心、自尊心等）」の大切さを伝えており、職員も日々の関わりの中で実践を続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会や講習会、実践者・管理者研修への参加。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、地域包括支援センター勉強会へのZoomでの参加。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族、前施設の職員さんに尋ねている。ホームで出来ること、他機関との協力が必要なことをよく説明する。見学のご案内を行い、実際の雰囲気を見て頂いている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期の支援は連絡を密にとり、以前の生活の事など伺いながら環境づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスが必要になるか要望も含めて介護支援専門員が中心となって対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どのようなレクが楽しまれたかをデータ化してレクを充実させている。 誕生日会は入居者様と職員生まれた月ごとに一緒にお祝いしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を毎月手紙で行っている。面会に関しては制限させて頂いていたが、電話を通じてお話しして頂いたり、玄関で距離を取って面会して頂いた。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限させて頂いていた中でも、玄関先での距離を取っての面会や、窓越し、また電話で会話して頂くように工夫している。	ご利用者の生活歴の把握に努めており、コロナ禍も筑後市内のドライブをしたり、自宅近くをドライブし、昔話をして下さっている。コロナ以前は家族と食事をされたり、お墓参りに行かれた方もおられ、地域の方や知人の訪問もあり、リビングや部屋で過ごされていた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方向士で会話をして過ごして頂いたりスタッフが間に入ってゲームや体操などを一緒に行って交流の場を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前施設で看取りさせて頂いたご利用者様のお通夜、葬儀、初盆や一周忌の時にご自宅へお参りに伺っている。転居された後も年賀状などで交流を図り関係が断ち切らないよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人の好きなようにすごしていただいている。本人の意向があれば、それを職員へ伝え対応している。	日々の生活の中で「食べたい物や飲みたい物」等の意向を伺うと共に、「家族に会いたい」という願いに対し、感染対策を踏まえながら窓越し等の再会を楽しんで頂いた。編み物が趣味の方もおられ、今後は一緒に毛糸を購入できればと考えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご御家族との会話の中で色々な情報を収集するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議や朝の申し送り、ノートなどを活用し伝達し話し合いや対応に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か気づきがあればその都度報告し会議で話し合いを行い計画を立てている。	入居前に自宅訪問し、生活状況などの把握に努めている。入居後も日々の体調観察と共に、3か月毎などにアセスメントし、変化は赤文字で記入している。ご本人の残存機能（できる事や役割）の記録を増やし、アセスメントと計画の整合性が取れるように努めている。日課表に注意点を記入し、日々のケアに活かしており、毎月のモニタリングで実施状況を記録している。	アセスメントの改良を続けている。①今後もADLの「起居動作」「排泄」等を更に細分化すると共に、「できそうな能力」もチェックし、長期・短期目標へ繋げていく予定である。 ②アセスメントの右欄に「ご本人の要望」を追記することで、介護計画のニーズ欄に繋げることができ、専門用語ではなく、ご本人や家族にわかりやすい表現を心掛けながら、家族との更なる話し合いを行っていく予定である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録へのレクの内容を明確に記入。朝・夕での申し送りでの伝達。大事な点は、申し送りノートへ記入し、情報の共有を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や面会等、ご本人や御家族の要望に応じて現在の状況を勘案して対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人、御家族の要望に応じて地域資源の情報提供を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望する医療機関を利用していただいている。また、必要時受診の付き添いや送迎などの支援をおこなっている。	往診医師との連携ができており、ホームの看護師に日々相談できる。受診時は職員が受診介助を行い、受診結果の共有もできており、必要時は家族に同席して頂く場合もある。職員の観察力も高く、昼間の早期対応に繋がっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回健康チェックを行い、状態や気づいたことなど情報共有している。また訪問看護に来られた際に、その都度情報共有している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換をおこない、職員が面会に伺う、医療機関との協力体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば、看取りを行い支援できる体制を作っている。	入居時に「看取りまで生活できますか？」と確認される方もおられる。ホームの「終末期ケアの方針」を説明し、「主治医や関係機関との連携、家族の協力を頂きながらの終末期ケアである」事の同意を頂いている。医療機関や看護師と連携し、職員間で情報共有し、家族も一緒に過ごせるように努めている。24時間体制の往診が可能であり、今後も全職員で終末期ケアなどの勉強を続けていく予定である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、消防署より救命救急の講習をしていただいている。AEDの場所、使用方法通達している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施と地域の方々へ相談して災害時の情報や協力体制をお願いしている。	コロナ前は運営推進会議の際に、消防署も一緒に夜間想定訓練をしていた。現在は日勤専従の新人職員もおり、昼間想定で訓練を続けている。避難の流れを職員に配布し、事前に読んで頂き、訓練に繋げている。災害に備えて懐中電灯、発電機、毛布、貯水パック、保存食60食、水2L×12本、お茶2L×12本、カセットコンロ等を準備し、井戸水も利用できる。系列施設の応援体制もあり、近くの川の増水状況を確認し、避難時期等を見極めている。	コロナ禍で消防署員の方に直接指導して頂く機会が減っている。2023年度は感染の流行状況に応じて派遣要請を行うと共に、地域の方にも参加してもらい、夜勤専従の方も参加できるようにしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴、更衣介助時は、必ずドアを閉めて対応している。また日頃から言葉遣いには職員間で注意し合ったり、勉強会にて接遇について再確認行っている。	ご利用者は人生の大先輩であり、日々の生活の中で丁寧な声かけに心がけ、居室に入る時も声かけやノックを行っている。職員同士で気兼ねなく、思った事を注意していけるように努めており、記録物の保管場所も留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫を行い可能な限りご本人の意向を表現できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	空き時間で楽しみを持てるように、読書や歌番組を見てもらったり工夫している。空き時間では自主的にみんなで歌を歌ったり楽しんでおられる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時のお化粧やネイルの支援や定期的な散髪が出来られるように支援をおこなっている。また更衣の際は好きな洋服を選んでいただくようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお米とぎ等手伝って頂いている。	2019年秋から法人本部で全ての事業所の副食と行事食を作り、ホームに届けている。献立は社長が考えており、汁物はホームで手作りする時もある。ご利用者もお米とぎや盛り付け、食器拭き、片付け等をして下さる。以前からホームの食事は好評で、今も変わらず「美味しい」と喜ばれている。正月にはホームで雑煮を作り、豆腐入りの紅白団子が入っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態に応じて補助食品の提供を行っている。またミキサー食や刻み食、ムース食など状態に応じて提供している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケアを行い、必要に応じてスポンジブラシなど使用し介助している。個別に歯科による定期的な口腔ケアを実施している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせて、時間の調節、対応している。	昼間は全員トイレで排泄している。布の下着を着用し、自立している方もおられる。ご利用者の排泄パターンを把握し、必要に応じて事前誘導し、失禁が減った方もおられる。ご本人の希望で紙パンツを使用する方もおられるが、自立支援の視点を大切に、理念にある「あきらめない」ケアに努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	集団体操や歩け歩け運動実施。 主治医への相談による薬のコントロールと毎食時乳酸菌飲料の提供。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が前日に次の日の入浴者を書いてご利用者に分かるように掲示している。前日に用意が出来る方は自分で用意して頂いている。	週3回は入浴できるようにしている。入浴時の声かけやタイミングに配慮しており、入浴拒否は少ない。湯温や薬用シャンプーの使用など、ご利用者の要望に応じている。入浴時は職員と会話したり、柚子湯や菖蒲湯を楽しまれている。体調に応じて小規模の機械浴を使用する事もできる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアーマットの貸し出し。介護用品の情報提供		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診後は情報の共有を行い、薬事表で確認している。薬剤師との身体状況などに情報共有・相談を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌好きな方が多く、自主的に歌を一緒にうたわれている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は職員付き添いで散歩に行っている。	気候に応じて日光浴や敷地内の散歩を楽しまれ、敷地内でお茶会をする時もある。個別（1人～2人）でドライブに行く時もあり、四季折々の花見（桜、コスモス等）を楽しまれている。コロナ前はおしゃれをして、買物等にお連れしたり、外食（広川町の和華）に行かれていた。今後も自宅への外出や外泊支援を増やす予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額でなければ、ご本人、ご家族の理解があれば所持して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの希望があれば、職員が御家族に電話し変わって頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線上に危険物を置かないようにしている。季節に合わせたものの掲示、写真の掲示や花を飾っている。	リビングで過ごされる方が多い。職員手作りの脳トレやレク、ゲームの品物をリビングに置いており、ご自分で選べるようにしている。社長が持参して下さる絵本を読まれたり、マッサージチェアも愛用し、音楽をかけて体操や歩行訓練をされている。日々温湿度の調節を行い、掃除は1日3回している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空き時間で歌好きな皆さんで集まって歌って頂いている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな観葉植物やテレビなど使い慣れた物を持ってきていただいて、ご本人が使いやすいように配置している。	部屋のドアに名札を掛けたり、ご自分が作られた折り紙等をドアに貼っている。各居室は照明のスイッチの高さを低くしており、部屋中に手すりを設置している。備え付けの筆筒の上は布団などを置けるスペースになっている。家族の写真やタンス・洋服・テレビ・植物・趣味の品物（編み物）を持ち込まれており、今後も一緒に毛糸を買いに行きたいと考えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に応じて、お手伝いや作業をしていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				